

- ・コラム「小冊子に思う」
- ・お知らせ（体験ボランティア
2009 ブログ開設 タウン誌取材
共同連マラソントーク マスク寄贈
旧山川町が回収エリアに）
- ・ご支援下さった皆様 / 編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

2009年10月 134号

—「小冊子に思う」—

杉浦 良

「働くことは生きること」と題する小冊子が、名古屋の市民フォーラム21・NPOセンターから発行されました。サブタイトルに「障がい者の自立を実現する先進事例集」とあり、青森、東京、長野、名古屋、徳島、佐賀にある9カ所の団体が紹介されています。

パン屋、喫茶店、お菓子工房、無添加石鹸製造卸し販売、地元商店街のお客様宅配事業、リユースリサイクル事業、データ入力加工、事務処理系システム開発、アンケート企画集計分析など、障害者ができるだけ自立して生活できる賃金を支払うための努力と工夫をしている社会福祉法人、NPO法人、株式会社、有限会社、個人事業主にスポットが当たりました。



太陽と緑の会リサイクル作業所 店内清掃作業

「売れないなら、売り方を変えればいい」
「待ちの販売から攻めの販売へ」「障がい者が届けるパンが持つ価値」「障がい者にこそ接客業が合っている」「福祉を知らない人が福祉に必要」「立地のせいにはいけない」
「障がい者もここでは労働者」「お客様の声に耳を傾け常に商品開発」「行政からはお金ではなく仕事をもらう」「隙間を埋める商売を考える」など、刺激的で含蓄ある言葉が散りばめられ「障害者の就労支援に求められるのは、福祉の専門知識より経営センスだ」とまとめています。

営利団体、非営利団体は、利益を目的とするしないの違いはあっても、どちらも組織を運営していくために利益がなくてはやっていけません。就労支援に工夫と努力を注いでいるのはむしろ営利団体で、より試行錯誤や切磋琢磨が求められているからだと、指摘しています。障害者の就労支援に、福祉の専門性よりも営利組織の経営マインドが必要だというパラドクスは、硬直した日本の現状と重なります。

営利企業が利益の追求と同時に、地域社会への貢献や社員の幸せを考えることで、その存在意義を高めていくことと、障害者の就労支援を目指すために経営センスを磨き、試行錯誤を続ける非営利団体の活動が、やがてつながるわけです。

「エコノミクスって、ギリシャ語のオイコノミコスから来ているんですけどどういう意味かといいますと、共同体のあり方、という意味なんです」と、あの竹中平蔵氏の言葉を本で見つけました。

「共同体のあり方」が、経済と日本語訳されたエコノミクスのルーツなら、日本の経済

成長を考えることは「日本の共同体のあり方をより高めていくことを考える」となります。「貧しさ・貧困」という今日的テーマの根っこに、「格差の増大」と同時に、「共同体意識の貧しさ」を見つける方がいます。共同体のあり方をより高めていけば、格差の増大と共同体意識の貧しさが進み、懐もカラカラ、心はカサカサ、体はクタクタになるというパラドクスが、横たわっています。そろそろいろんな垣根を取っ払って、逆転の発想で、共同体のあり方を考える時期なのでしょう。メジャーがダメならマイナーに糸口があり、カルチャーが行きづまればサブカルチャーにヒントがあるのでは？と、勝手に思い描いております。「あせらず、あわてず、あきらめず」ですか・・・。

夕やけこやけの
赤とんぼ



イラスト 阿部君

お知らせ

体験ボランティア 2009

6月から9月にかけて、夏の体験ボランティア 2009 を行いました。徳島県内在住の方4名が参加しました。

今年の体験ボランティアは、できるだけ参加しやすいようにと、参加者が自由に参加期間及び時間を設定できるというスタイルで行いました。

トラックに同乗し各家庭を訪問して品物・資源ごみを頂いたり、頂いた品物の選別、商品の整理、資源ごみの積み込みなど、様々なハンディを持ったメンバーとともに、リユース・リサイクルの作業を体験して頂きました。

竹條さん、12日間参加（6月20日、21日、27日、28日、7月25日、8月2日、11日、23日、29日、30日、9月5日、6日）

清久さん一家3名、8日間参加（8月23日～31日）



ブログを開設しました

NPO法人太陽と緑の会のブログを始めました。

9年半前に、太陽と緑の会のホームページがスタート、取材、見学等の下調べに活用して頂くなど、情報発信のツールとして定着しています。

ただ、公式サイトとは別に、もう少し柔らかいタッチで、日常のひとコマを切り取ってお伝えしていく場があれば、と考えておりました。

ブログは太陽と緑の会専任職員の木村有理子が担当します。太陽と緑の会のホームページからもリンクしていますので、ぜひご覧下さい。公式サイトでは見えない舞台裏が感じられるかもしれません。

<http://taiyoumidori.blog61.fc2.com/>

タウン誌取材

9月17日午後、徳島のタウン誌ASAの野々村さんとカメラマンの方が取材のため、太陽と緑の会リサイクル作業所に来所されました。

ハイブリッドカー「プリウス」に乗って環境問題に取り組んでいる現場を訪ね、紹介する「徳島エコの旅」という企画で、同誌11月号にて、太陽と緑の会のCO₂削減エコハウスの取り組みを紹介して頂きました。

太陽と緑の会では、96枚のパネルを設置した太陽光発電による電力を完全自給するとともに、独自の換気システムや徳島県（東祖谷）産の杉の間伐材を導入し、エアコンなしでも快適に過ごせる店舗空間を創出し、年間でドラム缶約72本分の原油を節約しています。

共同連マラソントーク

9月12日、午後1時半から4時半まで、共同連マラソントークを徳島市内（ホテル千秋閣）で開催、共同連関係者12名、県内の作業所関係者他30名が参加しました。太陽と緑の会から代表杉浦と太陽と緑の会リサイクル作業所所長の小山が出席しました。

徳島では「共同連」という団体や、共同連の提唱する「社会的事業所」という制度（現在滋賀県で制度化）に、ほとんどなじみがありませんが、民間企業レベルの経営を行うことで事業収入を伸ばし障害者の人にも全員最低賃金以上の給料を支払っている事業所の事例の紹介もあり、刺激を受けた参加者の方もいたようです。

徳島との地域性の違いを感じる面もありましたが、長年の実践に基づくお話は参考になる点が多く、障害者自立支援法

の下で「サービス提供者と利用者」という関係が強調される中で、健常者も障害者も共に働くということの意味を改めて考える良い機会となりました。

翌13日、共同連代表の松場作治さん（大阪障害者労働センターマツサクぐるーぷ代表）を初め、共同連関係者の皆様が、太陽と緑の会リサイクル作業所に来所・見学されました。電動車いすを巧みに操る代表自らがリフトキャブのハンドルを握り、リフト操作はメンバーさんが行うその姿がとても自然で、印象に残りました。

同グループの皆様は、10月18日にも見学に来られました。当会作業所のメンバーが、作業の説明をしたり松場さんからの質問に答えたりする場面もありました。「またメンバーを入れ替えて見学に来たい」と言って帰られました。



マスクの寄贈

9月25日、レディ薬局様より、地域活動支援センター太陽と緑の会リサイクル作業所及び障害者地域共同作業所太陽と緑の会の宮作業所に対し、不織布マスクを50袋（1袋5枚入り）250枚ずつ、計500枚を寄贈して頂きました。徳島市を通じ、市内の各高齢者・障害者施設に提供して下さったもので、新型インフルエンザの本格的流行への備えとして活用させて頂いています。ありがとうございました。

イベント

9月19日、午後2時から3時30分まで、ウイグル出身のキラム・アブラさんによるダップ・アコーディオンライブを開催しました。手拍子あり、踊りありの賑やかなひとときとなりました。

ライブの様様を太陽と緑の会で見ることができます。

次回は11月1日（日）午後2時から行います。まだご覧になったことがない方も、ぜひお越し下さい。

見学

8月1日午前10時から午後0時30分まで、NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー（徳島県上勝町）より12名の皆様

8月27日午後2時から4時、徳島市立宮井小学校人権学習会より19名の皆様

9月24日午後5時30分より7時30分まで、経済産業省四国経済産業局の濱田係長を初め、四国地域コミュニティビジネス推進協議会関係者等5名の皆様

旧山川町が回収エリアに

当会ではご家庭で不用となった品物等を、無料でご自宅まで引き取りにお伺いしています。

これまで吉野川市西部（旧山川町）は、遠方のため回収エリア外とさせて頂いておりましたが、10月より引き取りにお伺いすることができるようになりました。

回収エリアは北は鳴門市、西は阿波市東部（旧土成町）及び吉野川市（美郷村を除く）、南は阿南市北部となります。

食器、雑貨、電化製品、家具、本など、いろいろなものをお引き取りしています。まだまだ使えるのに捨てるのはもったいないと思われたら、一度お電話下さい。ただし、家具類の一部及び家電リサイクル法対象品につきましては、現品を見ての判断となりますので、よろしくお願い致します。

リサイクルショップでは買い取り対象にならないような品物も、ここではリユースに結びつき、資源の有効利用及びゴミの減量に貢献するとともに、様々なハンディを持った人たちの仕事が創出されることで、障害者の支援にも役立っています。さらに、ここで体験実習や体験ボランティアをする学生・社会人の方にとっての社会教育にもつながっています。

品物引き取りのご依頼は

088-642-1054

お名前、ご住所、ご連絡先、品物をお聞きしてカードに登録し、一両日中に、お伺いする日時を回収担当者からご連絡させて頂きます。買い取り及び有料でのごみ処分はしていません。

お伺いした際、品物はお間違えのないよう、よくご確認の上、お出し下さい。

当会の活動をご支援下さった皆様

§2009年8月1日～2009年9月30日§(紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付下さった皆様方

吉田 哲司、岡田

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた方々

○徳島市○松浦、増田、山口、木内、広中、ダイヤ配送、森、近藤内科病院、田村、村部、山中、三原歯科、内田、小西、五藤、太陽堂薬局、佐藤、大村、富永、山本、丹羽、藤本、西田、三好、久保、中村、吉田、矢部、渡辺、以西、富岡医院、四宮、待田、宮本、中川、市田、杉山、大久保、向井、岡、大西、川端、福井、田口、里口、大和、田中、藤井、中島、小倉、ビューティーオアシス チョ、藤永、山下、川口、粟飯原、石川、相原、岡田、睦技研、坂東、井上、谷、三好、森田、岡本、松下、鎌田、橋本、迎、松井、出口、村田、(有)神映通工、中、蔭西、八木、藤原、神例、白鳥、赤沢、国見、長谷部、米沢、いさみ、吉岡、花岡、重本、七條、岸、徳倉、阿部、三木、横井、浅野、西條産婦人科、相原、大櫛内科、金村、谷本、後藤、パソQ、小喜多、助野、鈴木、世良、関本、安部、荘司、釜内、田原、櫻浦、城東高校、中本、鬼頭、瀬川、原、櫻山、桜間、内田、田中工業所、三宅、齊木、みのもて○小松島市○小松、柳川、河野○藍住町○オーケー設計、大崎、渡辺、泉、上田、矢野○吉野川市○松下、稲井、森本、坂○北島町○結城、林、森、小林洋服店、黒田、伊藤、戸川、重成○石井町○野村、高岡、阿部、中倉、脇田、川上○鳴門市○渡辺、多賀、中尾、井戸、谷口○上板町○矢野○阿波市○中村○松茂町○松本、打越

品物を持って来て下さった方々(郵送含む)

○徳島市○多田、高岡、久米、川人、吉田、桂、泉、八木、仁木、原前、田所、三木、阿部、竹中、和田、坂橋、泰、松本、鎌田、杉本、岡田、中島、妹尾、落合、伊丹、福田、堀、酒井、田中、角、大北、下田、以西、新川、長尾、宮本、岡本、高橋、寺井、志知、森西、細川、近藤、南場、小西、佐々木、河村、東條、矢部、梅津、青野、大隈、流、原田、木田、久保、沖津、山口、大久保、鶴田、原、鈴江、山城、林、生田、井出、赤川、藤岡、竹林、大塚、富田、姫野、山下、照本、播、黒田、福井、岸田、田所、藤本、近久、折野、町田、南部、武内、庄野、横山、学谷、平佐、河野、川島、竹房、宮西、安田、大栗、宇野、森、長楽、広田、播磨、島田、金沢、巻、寺内、山内、山花、加納、黒田、栢、牧、川上、井内、谷、工内、川田、篠原、能田、堀井、伊勢、田和、金本、元木、井原、三間、大泉、西森、シェール カヤ、(株)ワークスタッフ、大島、平川、三木田、中西、中川、美馬、日野、中野、中上、青木、井上、新田、坂東、吉野、金丸、増原、寺岡、藤野、十月、尾本、森田、岡、梅岡、津田、谷井、長谷、桑原、上山、西、丸岡、国、春藤、布川、塩田、山田、福原、小山、木内、田村、櫻谷、筒井、山形、領家、西山、矢野、釜床、梶原、山中、前川、武市、藪原、野崎、廣田、谷口、玉野、山岡、三国、野口、佐子、新居、小林、野々瀬、後藤田、本田、森本、中村、水口、坂部、労福協 なのはな、西谷、西岡、後藤、田口、花本、伊勢岡、清、松田、湯浅、芝原、榎本、藤田、井形、立石、富岡、中平、津川、森藤、姫岡、尾方、樋口、山松、石山、大野、常陸、真貝、青井、長浜、大寺、秋田、大岩、浜口、小野、楠本、坂田、有持、宮崎、中峰、鷹見、村上、十河、吉内、安井、岩崎、濱口、中尾、桜井、清水、森東、古川、元川、滝山、森北、齊藤、寿建装、笹本、梶野、木野内、七瀬、坂口、長谷川、蔵本、河野、地福、小泉、佐原、北島、堀口、前林、杉浦、乾、丸笹、木元、白山、池添、西真田、柴山、青山、村端、米津、南場、吉野、上地、武田、萩原、藤野、早、大沼、芥川、加藤、斎藤、高森、宮内、両角、田口、緒方、岩見、獄尾、○鳴門市○寺田、宮本、足田、吉田、渡辺、渡、賀川、多賀、石丸、植町、藤岡、大橋、糺、細井、益岡、櫻原、小川○藍住町○松浦、平野、櫻原、倉橋、朝波、西川、熊本、万藤、石川、村上、角本、植村、中野、小笠原、高田、松原、中村、矢野、岡部、藤原、中西、姫野、森本、花谷、河野、岡部、上田、杉村○吉野川市○有持、田中、金子、村上、加本、北浦、松島、川野、露口、池田、井元、住友、藤井、田村、三木、麻植、早見、谷、津村、渡部、井原、左近○阿波市○川井、森川、介護老人保健施設 リブインクローバー 福原、福家、鳴川○小松島市○大森、平尾、宮田、上田、勝瀬、正木、渡辺、川人、井村、南谷、植木、大脇○香川県○鍋島、栗飯原、矢部、川上○阿南市○近藤、大田、京寛、吉友○北島町○村田、小山、森、村田、大島、福永、亀井、佐藤、田根、久泰、島海○松茂町○藤岡、打越、浦土井、中西、春田、佐藤○三好市○川村○京都市○磯田、木村、井上○高知県○長崎、大崎○石川県○井上○東京都○荻野、内藤○兵庫県○山村○松茂町○千葉、三野○石井町○漆原、片山、矢野、佐藤、加藤、中川、久米、竹岡、野上、香川、北岡、今倉、吉本、後藤、タリーナ、桃井、川田、北島、田中○上板町○河野、稲井、原、森本○板野町○五條、菱岡、後藤、沖津、東條○佐那河内村○山本○美馬市○大西○海陽町○神沢、野村、堀内○勝浦町○福田○阿南市○森、燕原○美馬市○長江、清水

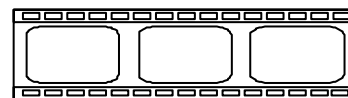
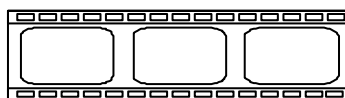
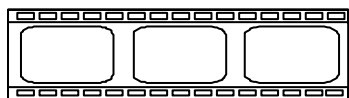
いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。中には、リサイクルショップで買取対象となる品物を当会に寄附して下さる方もおられ、本当にありがたいことと思います。頂いた品物は大切にリユース・リサイクルし、障害者の自立支援、ボランティア育成、他団体への支援などの活動につなげていきます。

リユース・リサイクル可能なものが、またございましたら、ぜひお電話下さい。

最後に、吉田様を初め、いつも旬の農作物を無償で提供して下さる皆様にも、この場を借りてお礼申し上げます。



ゼロ戦 21型は太平洋戦争中に活躍しました。最後は250キロ爆弾をだいて特攻機として米空母エセックスに体当りをしました。



編集後記～「切り捨てる」ということ～

100の仕事ができないと一般就労できない、という状況があったとします。この場合、90の仕事ができる障害者の人は残念ながら一般就労することができません。60の人、40の人、10の人についても、同じです。

では、基準に満たなかったこれら4人の人はどうしたらよいのでしょうか。

第一に、そのような人ばかり集めて福祉サービスを提供すればよい、という考え方があります。その場合、例えば就労継続支援事業や通所授産施設など公的な福祉サービスを利用することになると、1人当たり年間120万円から230万円の税金が使われることとなります。ただし予算や質、量の不足により、サービスを利用できない人が出てきます。

第二に、これら4人の力を合わせれば、200(=90+60+40+10)の仕事、つまり一般就労2人分の仕事ができるのではないか、という考え方もあると思います。

例えば、地域活動支援センター太陽と緑の会リサイクル作業所では、様々なハンディを持った人がその人なりの働き方を続けています。磨いたり拭いたりすることができる人、値札付けや商品の袋詰め作業ができる人、物を持ったり運んだりすることができる人、古紙の積み込み作業ができる人、お客様の対応ができる人、電話の対応ができる人、レジができる人、いろいろな人が、自分のできることは自分でやり、できないことはできる人に助けてもらうことで、年間300日、7200件1000トンのリユース・リサイクル事業を支えています。

第三に、これらの人は、そのまま放っておけばよい、という考え方がありません。仕事ができないのが悪いのだから仕方がない、ということです。

「基準に満たない人を社会から切り捨てる」という考えは、障害者領域に限った話ではありません。

アメリカのサブプライム危機に端を発した景気後退の影響で、職住を同時に失って野宿を余儀なくされた労働者の方の問題がクローズアップされていますが、実は大阪釜が崎では何十年も前から、野宿を余儀なくされた日雇労働者の方の問題がありました。

社会からの切り捨てが広がると、最終的に生活保護や刑務所といった最後のセーフティネットのコスト増大という形で跳ね返ってきます。

切り捨てる側から切り捨てられる側への転落は、ある日突然やってきます。一度切り捨てられると、元に戻ることは容易ではありません。セーフティネットからこぼれ落ちた結果、路上で凍死、餓死したり、自殺される方が後をたたない。これは、過去の話でも、遠い国の話でもありません。(文責：小山)

特定非営利活動法人 太陽と緑の会

私たちは生態系のリサイクルを含めたリサイクル・リユース活動を、様々なハンディを持ったメンバー達の地域活動支援センター・障害者地域共同作業所とリンクさせて、行っています。地域の中で「人も物も活かされる街造り」をテーマに、ハンディーのあるなしにかかわらず「地域の中でその人がその人の足で立っていけること」を目指し、様々な方々(市民、ボランティア、行政)の支えを頂きながら年間300日、土、日、祭日を含めた、日常活動を行っています。

訃報

元太陽と緑の会リサイクル作業所所長で、脳腫瘍の手術から復帰された後、ボランティアとして活動していた三木善史さんが、9月28日、自宅で亡くなりました。享年53歳でした。

三木さんは、平成4年12月からボランティアとして当会での活動を始め、アルバイトを経て、平成5年12月より専任職員として活動するようになりました。当会作業所の様々なハンディを持ったメンバーに対しては、厳しい面もありましたが、温かい目線でいつも見守っていて、多くのメンバーから慕われていました。

2年後の生存率が2割との診断から5年間、自身の変化に何とか折り合いをつけようとしながら生き続けた三木さんの姿は、当会作業所の様々なハンディを持ったメンバーの姿と重なる所がありました。今まで本当にお疲れさまでした。

合掌

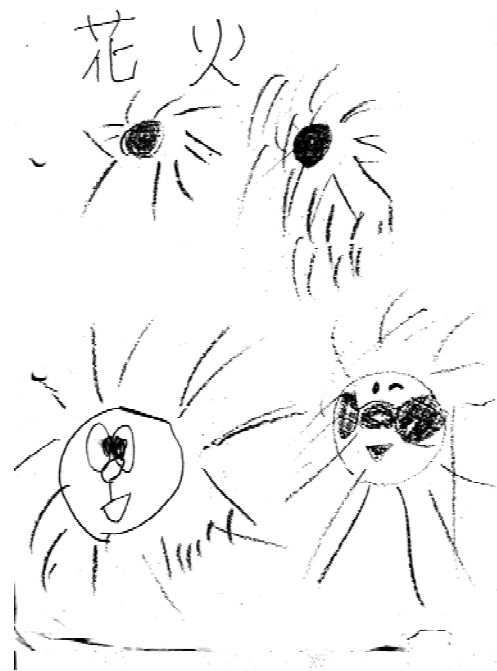


イラスト 阿部君

発行：特定非営利活動法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島県徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX 088-643-1054 (事務局)

TEL・FAX 088-642-1054

(リユース・リサイクル、地域活動支援センター)

URL <http://www.t-midori.org/>

E-MAIL t-midori@jeans.ocn.ne.jp

代表理事 杉浦良 編集 小山 隆太郎

編集サポート 岡田 郁子

年会費：正会員1万円 準会員1,000円

郵便振替口座：01620-8-44703